

ロシアの侵攻で国外へ逃れたウクライナ人に対し、隣国のハンガリーで連携して支援を続けている国際医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福町）とNPO法人TICO（徳島県）は31日、岡山市内で活動状況を報告した。現地から帰国した同法人代表理事の吉田修医師（63）＝同県＝が「多くの人が家族と引き離され、故郷を追われている」と戦争の悲惨さを訴えた。（1面関連）

# 故郷追われストレス

吉田医師は9、24日に支援第2陣として派遣され、国境の村など2カ所で活動した。

激戦地から遠く、外傷を負った人は診察しなかったものの、疲労やストレスによる不

眠、高血圧などを治療した。中には、心的外傷後ストレス障害（PTSD）からか、攻撃が怖



## 不眠、高血圧、PTSD

ハンガリーで避難民のケアに当たる吉田医師（右）＝20日（AMDA、TICO提供）

くてバスに乗れなくなった人もいたという。

重病者や高齢者が動けずに国外避難できていないとも指摘。「最も弱い立場にある人にどう手を差し伸べるかが今後の課題。停戦になればウクライナ国内での支援も考えた」とした。

400万人以上が国外へ逃れている現状については「避難民が祖国へ帰れるよう世界中が協力する必要がある」と国際社会による継続支援を訴えた。

AMDAとTICOは現在も4人体制でハンガリーに支援チームを送っている。

（西平亮）